

福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を 与えるリスク総点検に関わる対応状況

2015年10月30日

東京電力株式会社



東京電力

リスク総点検において、190項目（液体漏出：159項目、ダスト発生：31項目）について抽出し、体系的に整理した（4月28日公表）。

至近の進捗状況を3~6頁に示す。

- 「対策が必要」と評価した21項目については、対策の実施内容及び実施時期の計画を策定した（7月報告済）。
- 「調査が必要」と評価した45項目については、調査方法の検討、調査計画の立案などを実施し、スケジュール表に取り纏めた（8月報告済）。
- 「対策実施中」と評価している55項目については、現状の進捗を確認し、現時点で対策実施中の55項目について、スケジュール表に取り纏めた（7頁以降参照）。
- その他の項目については、総点検において「対策済み」、「リスクが十分に低い」と整理しており、今後実施するリスク総点検の定期的な見直しにおいて、これら対策の効果や廃炉作業の進捗に応じた状況の変化を確認し、継続的に管理していく。
- 現在対策中の項目及び今後調査・対策を実施する項目については、各対策の優先順位を考慮しつつ、全体としてリスク低減となるよう、必要な調整を行っていく。

対応状況

■リスク総点検で整理したリスクに対する対策・調査の主な進捗は以下の通り。

カテゴリ		件名数		備考
		2015.9時点	2015.10時点	
①	調査が必要	51	46	(1)調査の結果、対策が必要と判断した件名:5件(②に移行)
②	対策が必要	19	18	(2)対策に着手し、現在実施中の件名:5件(③に移行) (3)対策に着手し、完了した件名:1件(④に移行)
③	対策実施中	56	55	(4)対策が完了した件名:6件(④に移行)
④	対策実施後の 状況観察中	52	59	
⑤	現状では 対策不要	23	23	
合 計		201	201	

※項目は分割・統合等により、4月公表時点の項目数とことなる
 ※進捗確認のタイミングにより、実体の移行時期と異なる場合がある

個別対策の実施状況

	対応の進捗	件名	リスク	対応内容	リスク総点検 管理番号
(1)	①「調査が必要」 →②「対策が必要」 に移行	<ul style="list-style-type: none"> ・5, 6号復水器 ・5, 6号循環水系 ・5, 6号機ASW系 	5・6号機復水器・既設海水設備内の水が漏えいし、港湾内などへ流出するリスクがある。	処理方法検討中	No.68 (2015.8現地調整会議報告No.28-1)
		集中RW建屋(未調査) <ul style="list-style-type: none"> ・焼却工作建屋 ・サイトバンカ建屋 	保有している水が漏えいし、地下水として海へ流出するリスクがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却工作建屋の汚染水はプロセス建屋へ移送済み。 ・サイトバンカはプロセス建屋のドライアップに合わせて対応を検討する。 	No.144 (2015.8現地調整会議報告No.5-2)
		1～4号薬品タンク(硫酸・苛性)	薬品の設備から漏えいするリスクがある。	薬液の処理方法検討中	No.157 (2015.8現地調整会議報告No.2-3)
		1～4号機建屋周辺整備工事	ダストが発生するリスクがある。	現状のダスト対策と追加検討すべき内容を立案	No.160 (2015.8現地調整会議報告No.38)
		2号機原子炉建屋一部解体	ダストが発生するリスク	ダスト飛散抑制について検討中	No.161 (2015.8現地調整会議報告No.37)

個別対策の実施状況

	対応の進捗	件名	リスク	対応内容	リスク総点検 管理番号
(2)	②「対策が必要」 →③「対策実施中」 に移行	1～4号機 滞留水処理設備 ・配管、ポンプ 等	設備損傷により系外漏えい するリスクがある。	・処理ループ縮小のため建屋内 循環設備設置中 ・使用しない設備の残水除去検 討中	No.9 (2015.7現地調整会 議報告No.12)
		汚染土壌(H4エリア周 辺以外)	汚染土壌への雨水浸透によ り排水路へ流入し排水濃度 が上昇	汚染した土壌を回収(取り除く)す る。	No.75 (2015.7現地調整会 議報告No.3)
		仮設保管設備(A・Bテ ント)	瓦礫類の仮設保管設備(テ ント)が破損した場合に、ダ ストが拡散するリスクがある。	・点検実施中 ・テント破損時の雨水の地下への 染み込みを防止するため、コンク リート敷設等の措置を計画中	No.174 (2015.7現地調整会 議報告No.9)
		瓦礫類一時保管エリ ア(0.1～1mSv/h未 満)(シート養生)	瓦礫類に付着した放射性物 質がダストとして環境へ拡散 する。	・管理レベルを向上し、容器収納 可能な瓦礫類は金属容器へ収納 ・容器収納が困難な大型瓦礫に ついては、継続してシート養生を 実施	No.175 (2015.7現地調整会 議報告No.10)
		瓦礫類一時保管エリ ア(0.1mSv/h未満) (屋外集積)	ダストが発生するリスクがあ る。	・管理方法を改善し、瓦礫類を シート等で養生を実施 ・可燃・難燃物については、金属 容器への収納を行い、ダスト発生 および火災リスクの低減を図る。	No.184 (2015.7現地調整会 議報告No.11)





個別対策の実施状況

	対応の進捗	件名	リスク	対応内容	リスク総点検 管理番号
(3)	②「対策が必要」 →④「対策実施後の 状況観察中」 に移行	吸着塔一時保管施設 (Sarry/Kurion)	屋根がなく、吸着塔から漏えいすると雨水とともに流出するリスクがある。	・塔内水の淡水置換及び排水後に保管してモニタリングを継続し、漏えいのないことを確認している。	No.36 (2015.7現地調整会議報告No.15)
(4)	③「対策実施中」 →④「対策実施後の 状況観察中」 に移行	3号機周辺瓦礫置き場	3号機SFP内から瓦礫撤去を実施中であるが、撤去した瓦礫の汚染が、雨水とともにK排水路から流出するリスクがある。	FHM等大型瓦礫撤去完了	No.1-1 (2015.8現地調整会議報告No.1-1)
		2号機大物搬入口屋上	2号機大物搬入口屋上の屋根の汚染が雨水とともにK排水路へ流出する	(a)屋上部排水溝にゼオライト土嚢を設置 (b)屋上部にブルーシートを設置 (c)汚染源(ルーフブロック、敷砂)の撤去	No.5
		No.1ろ過水タンク (RO濃縮塩水／溶接タンク)	損傷等により漏えいするリスクがある	(a)堰の設置 (b)残水処理	No.46

個別対策の実施状況

	対応の進捗	件名	リスク	対応内容	リスク総点検 管理番号
(4)	③「対策実施中」 →④「対策実施後の 状況観察中」 に移行	淡水貯留タンク (角型タンク)	損傷等により漏えいするリ スクがある	(a)コンクリート堰の設置 (b)溶接タンクへのリプレー ス	No.51
		2号機原子炉建屋大物搬 入口屋上防水補修	ガレキ・コンクリートに付着 したダストが補修時に飛散 するリスクがある	仮設屋根設置	No.166
		3号 SFP内瓦礫	3号機西側ヤードにて切 断作業を行っているた め、ダスト濃度の上昇が 考えられる。	FHM等大型瓦礫撤去完了	No.168

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール						
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降
1	113	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・放水路壁劣化・損傷により地中に漏出	(a)たまり水の浄化:吸着材の設置(暫定対策) (b)放水口へのゼオライト土嚢設置 (c)浄化装置による浄化	(c)モバイル処理装置による浄化  ※(a)吸着剤・(b)土嚢設置済						
2	114	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	(a)たまり水の浄化:吸着材の設置(暫定対策) (b)放水口へのゼオライト土嚢設置 (c)浄化装置による浄化	※(a)吸着剤・(b)土嚢設置済 (c)浄化検討中						
3	115	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中に漏出	(a)たまり水の浄化:吸着材の設置(暫定対策) (b)放水口へのゼオライト土嚢設置 (c)浄化装置による浄化	※(a)吸着剤・(b)土嚢設置済 (c)浄化検討中						
4	157-3	集中RW重油タンク 集中RW軽油タンク 海生物処理設備重油タンク	危険物の漏えいのリスクがある。	重油・軽油タンクについては、タンクより抜き出し、危険物貯蔵庫へ保管。	集中RW重油・軽油タンク 抜き取り  ※海生物処理設備重油タンク抜出は2016年度予定 						
5	110	サブドレンピット No.16	・ピット内から周辺地下水への流出 ・豪雨時等の地下水位上昇による溢水	サブドレンNo16ピット水の放射能濃度を低減する為にピット内の水を汲み上げし、放射能濃度低下を促す。	汲み上げ継続  ※周辺状況の調査結果により、対策を検討						

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール								
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降		
6	101	4号機海水配管ト レンチ	・津波による建屋滞留水 増加により溢水 ・トレンチ壁の劣化等によ り地中に漏出	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤 改良 (c)汚染水の除去 (d)コンクリート充填			□						(c)(d)放水路上越部汚染水除去 ※(a)(b)は完了
7	9*1	1～4号機 滞留水処理設備 ・配管、ポンプ 等	設備損傷により系外漏えい するリスクがある。	・処理ループ縮小のため建 屋内循環設備設置中 ・使用しない設備の残水除 去検討中	□□□□				□□□				建屋内循環設備設置 ※その他対策は検討中
8	93	1-4号建屋接続 未調査トレンチ	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地 中に漏出	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤 改良実施済 (c)溜まり水の処理	□								(a)海側遮水壁工事 ※(c)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施
9	94	1-4号建屋接続 調査済トレンチ (水有り)	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地 中に漏出	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤 改良実施済 (c)溜まり水の処理	□								(a)海側遮水壁工事 ※(c)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施
10	95	2～4号機DG連 絡ダクト	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地 中に漏出	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤 改良実施済	□								(c)海側遮水壁工事 ※(a)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施

※1 2015.7現地調整会議ではNo.12

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール												
					10 月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降						
11	98	3号機起動 用変圧器 ケーブルダクト	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中 に漏出	(a)建屋への流入箇所の止水 (b)海側遮水壁の設置 (c)水ガラスによる地盤改良 実施済	□												
																	※(a)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施
12	99	2・3号機電 源ケーブルト レンチ	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中 に漏出	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良 実施済	□												※(a)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施
13	100	4号機電源 ケーブルト レンチ	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中 に漏出	(a)汚染水の除去 (b)コンクリート充填 (c)海側遮水壁の設置 (d)水ガラスによる地盤改良 実施済	□												※(a)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施
14	102	廃棄物処理 建屋間連絡 ダクト	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中 に漏出	(a)建屋への流入箇所の止水 (b)海側遮水壁の設置 (c)水ガラスによる地盤改良 実施済	□												※(a)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施
15	103	1-4号建屋未 接続 調査 済トレンチ (水有り)	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により地中 に漏出	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良 実施済 (c)溜まり水の処理	□												※(c)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール						
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降
16	104	1-4号建屋未接続 未調査トレンチ	・雨水流入により溢水 ・ピット劣化・損傷により 地中に漏出	(a)海側遮水壁の設置 (b)水ガラスによる地盤改良 実施済 (c)溜まり水の処理	(a)海側遮水壁工事 ※(c)溜まり水の調査・処理の検討は別途実施						
17	75*1	汚染土壌(H4エリア周 辺以外)(雨水の汚染 源)	・1~4号機タービン建屋 東側近傍の土壌 ・過去に漏えいし、回収 できなかった土壌(H4エ リア周辺以外)	・10m盤フェーシングによ る周辺地下水位への影響 評価 ・測量調査 ・施工検討	35m盤土壌回収は完了 ※1~4号機タービン建屋東側は施工方法検討中						
18	163*2	汚染水貯留設備 (フランジタンク解 体・残水処理)	解体・残水処理中にタン ク内表面から発生するダ ストが高い濃度で飛散す る。	解体・残水処理に合わせ、 飛散抑制防止対策(先行 塗装、散水、集塵機、監視 等)を実施中	フランジタンク解体時に適宜実施						
19	164*3	汚染水貯留設備 (フランジタンク解 体・タンク切断)	切断時に発生するダスト が切断エリアの建屋外に 飛散する。	フランジタンク切断に合わ せ、飛散抑制防止対策(囲 い、局所排風機)を実施中	フランジタンク解体時に適宜実施						
20	7	K排水路	枝排水路等の汚染が 雨水とともにK排水路 へ流出する	清掃の実施 ゼオライト土嚢・モール状 吸着材の設置 排水路港湾内付け替え	港湾内への付け替え工事 2015年度未完了予定						

※1 2015.7現地調整会議ではNo.3 ※2 2015.7現地調整会議ではNo.7 ※3 2015.7現地調整会議ではNo.8

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール							
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降	
21	174*1	仮設保管設備(ダスト)	瓦礫類の仮設保管設備(テント)が破損した場合に、ダストが拡散するリスクがある。	・点検実施中 ・テント破損時の雨水の地下への染み込みを防止するため、コンクリート敷設等の措置を計画 中	瓦礫発生時に適宜実施						000	
22	175*2	瓦礫類一時保管エリア(0.1~1mSv/h未満)(シート養生)	瓦礫類に付着した放射性物質がダストとして環境へ拡散する。	・管理レベルを向上し、容器収納可能な瓦礫類は金属容器へ収納 ・容器収納が困難な大型瓦礫については、継続してシート養生を実施	瓦礫発生時に適宜実施						000	
23	184*3	瓦礫類一時保管エリア(0.1mSv/h未満)(屋外集積)	瓦礫に付着したダストが風等により飛散。	・管理方法を改善し、瓦礫類をシート等で養生を実施 ・可燃・難燃物については、金属容器への収納を行い、ダスト発生および火災リスクの低減を図る。	瓦礫発生時に適宜実施						000	
24	22	A排水路	枝排水路等の汚染が雨水とともにA排水路へ流出する	・清掃の実施 ・ゼオライト土嚢・モール状吸着材の設置 降雨等により適時対応並びに交換等実施していく。	清掃継続実施中、枝排水路調査実施予定						000	
25	38	B・C排水路	B・C排水路内の汚染物質が雨水により流れ海洋へ流出することが懸念される。	(a)暗渠化 (b)湾内への切り替え (c)清掃の実施	(c)清掃継続実施中、枝排水路調査実施予定						000	
					※(a)(b)は完了							

※1 2015.8現地調整会議ではNo.9

※2 2015.8現地調整会議ではNo.10

※3 2015.7現地調整会議ではNo.11

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇 所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール						
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降
26	39	堰内雨水 移送・処理 設備	設備損傷により漏えいする リスクがある	・漏えいしにくいポリエチレン 管に変更	PE管への変更等（2016年度末目途）						000
27	48	ALPS処理 水貯留タン ク (フランジタ ンク)	損傷等による系統外漏えい するとB・C排水路へ流出す る	(a)堰のかさ上げ・二重化 (済) (b)溶接タンクへのリプレー ス 等	2016年度に実施予定						000
28	49	Sr処理水貯 留タンク (フランジ)	損傷等による系統外漏えい するとB・C排水路へ流出す る	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)溶接タンクへのリプレー ス (c)汚染水浄化 等	2016年度に実施予定						000
29	50	4000tノツ チタンク (角型タン ク)	損傷等による系統外漏えい するとB・C排水路へ流出す る	・3000tノッチタンクは水抜き済 ・1000tノッチタンクについては、 雨水処理設備から発生する濃 縮水について、35m盤内で浄 化処理する設備の設置を検討	35m盤での浄化設備を検討中						000
30	52	淡水貯留タ ンク (フランジタ ンク)	損傷等による系統外漏えい するとB・C排水路へ流出す る	(a)堰のかさ上げ・二重化 (b)溶接タンクへのリプレー ス	2016年度に実施予定						000

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール						
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降
31	53	廃棄物用タンク (濃縮廃液 ／横置きタンク)	損傷等による系統外漏えい するとB・C排水路へ流出する	・溶接タンクへのリプレース 等	溶接タンクへのリプレース 〇〇〇						
32	54	淡水貯留タンク (横置きタンク)	損傷等による系統外漏えい するとB・C排水路へ流出する	・溶接タンクへのリプレース 等 淡水の移送を実施	2016年度に実施予定 〇〇〇						
33	56	Sr処理水貯留タンク (溶接タンク)	損傷等による系統外漏えい するとB・C排水路へ流出する	(a)堰のかさ上げ・二重化 (済) (b)汚染水浄化 等	浄化継続 〇〇〇						
34	57	工所用仮置きタンク	・タンクの損傷・劣化・転倒による系統外漏えいするとB・C排水路へ流出する	・管理ルールを設けて管理	管理ルールを設けて管理を実施中 〇〇〇						
35	62	高台炉注バッファタンク堰内溜まり水	大雨／タンクからの漏えいにより堰からオーバーフローと物揚場排水路へ流出する	・タンク水をRO処理水から雨水処理水に入れ替え(実施済) ・堰内溜まり水をバッファタンクへ回収する設備を設置(実施済) ・堰内塗装(実施済) ・堰への屋根設置(工事中)	堰カバ―設置中 〇〇〇						

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール						
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降
36	66	物揚場排水路	物揚場排水路内の汚染物質が雨水により流され海洋へ流出することが懸念される。	(a)清掃の実施 (b)ゼオライト土嚢・モール状吸着材の設置	清掃継続実施中、枝排水路調査実施予定						
37	70	高台炉注バッファタンク	損傷等による系統外漏えいすると物揚場排水路へ流出する	(a)堰 (b)溶接型タンクへのリプレイス	堰は設置済、リプレイス検討中						
38	76	汚染土壌(過去にタンク漏えいし、回収できなかった土壌)(H4エリア周辺)	汚染土壌への雨水浸透により排水路へ流入し排水濃度が上昇	(a)アパタイト設置による流出防止(済) (b)タンクリプレイスに合わせ土壌回収	H4タンクリプレイスに合わせて土壌回収予定						
39	80	地面(フェーシング予定箇所)	雨水が汚染源となる地面を流れると汚染水が海洋へ流出することが懸念される。	・除染・フェーシング	除染・フェーシング継続実施						
40	81	震災当初の瓦礫(地表)	雨水が汚染源となる地面を流れると汚染水が海洋へ流出することが懸念される。	・瓦礫撤去・フェーシング	瓦礫撤去・フェーシング継続実施						

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール						
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降
41	82	1～4号機周辺 エリアにおける 作業に伴う散 水	散水による汚染水が海洋 へ流出することが懸念され る。	散水前に飛散防止剤を塗布 し流出抑制(2号建屋解体、1 号ガレキ撤去)	飛散防止剤塗布の継続						000
42	87	1～4号機建屋 滞留水 (連通していない 箇所も含む)	・建屋水位と地下水位の 逆転による汚染水の地下 水への流出	(a)建屋水位管理 (b)地下水流入抑制策及び これによる地下水位低下に 併せた滞留水の除去のリプ レイス	地下水位流入抑制対策実施中						000
43	140	5, 6号機滞留 水浄化後の水 の構内散水	・散水により地下水への流 出	・散水前に散水基準である 「告示濃度比0.22以下」であ ることを確認し散水を実施	散水継続						000
44	141	滞留水貯留タ ンクまわり堰内 雨水の散水	・散水により地下水への流 出	・散水前に散水基準である 「告示濃度比0.22以下」であ ることを確認し散水を実施	散水継続						000
45	152	1～4号機周辺 4M盤瓦礫	降雨により瓦礫の汚染物 が洗い流され海へ流出す る	ガレキの撤去	瓦礫撤去継続						000

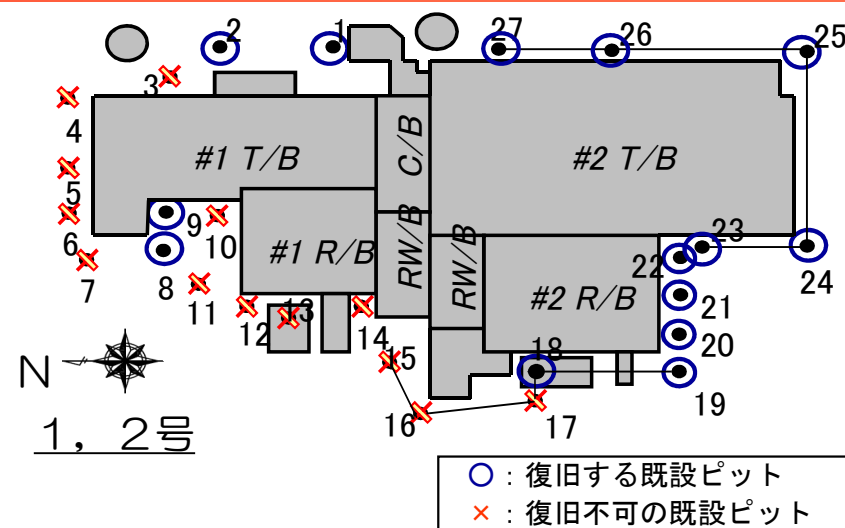
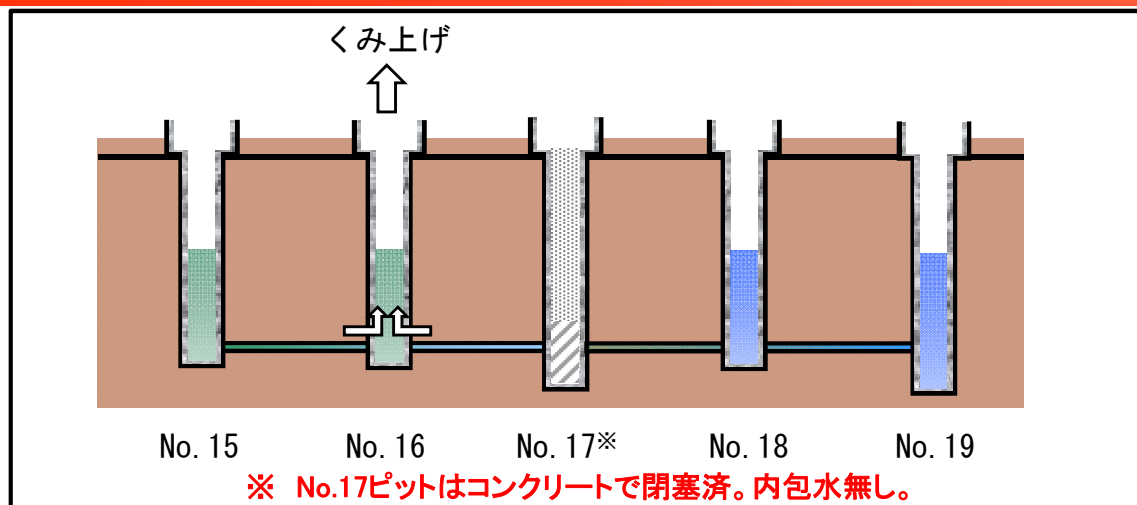
対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール						
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降
46	155	港湾内海底土等	港湾内に堆積した汚染物が海へ流出する	・海底土の被覆	海底土被覆（2層目）実施						
47	158	火災	・火災により設備から汚染水が漏洩する。	・防火パトロール、消防資機材の管理 消防訓練の実施、消防資機材の管理	適宜実施						
48	159	人的要因による敷地外への漏出（持ち出し等を含む）	・作業員の誤操作等による汚染した水の敷地外流出	・操作者の教育・訓練 ・パトロール、施錠管理等	適宜実施						
49	165	1号機原子炉建屋オペレーティングフロア上のガレキ撤去	ガレキに付着したダストが撤去時に飛散	飛散防止剤散布、散水設備、ガレキ吸引等	適宜実施						
50	167	3号機原子炉建屋オペレーティングフロア上のガレキ撤去・除染	ガレキ・コンクリート床に付着したダストが撤去・除染時に飛散	飛散防止剤散布	瓦礫撤去継続						
51	169	ガレキ撤去用重機、除染重機	解体・除染重機等に付着したダストが飛散	定期的な除染	適宜実施						

対応スケジュール（「対策実施中」の項目）

番号	リスク 総点検 管理番号	リスク 存在箇所	リスク 内容	対応概要	対応スケジュール								
					10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 以降		
52	186	原子炉建屋上部 ガレキ置き場	高線量瓦礫置き場に仮置きしたガレキに付着したダストが飛散	現場目視確認 線量測定	適宜実施								000
53	187	1～4号機周辺地盤	建屋周囲の地盤面に散乱したフォールアウト・ガレキに付着したダストが飛散	ガレキ撤去・フェーシング	継続実施								000
54	189	火災	火災によりダストが飛散する。	・防火パトロール、消防資機材の管理 消防訓練の実施、 消防資機材の管理	適宜実施								000
55	190	その他	人的要因によるダスト飛散	・操作者の教育・訓練 ・パトロール、施錠管理等	適宜実施								000

別紙1. サブドレンNo.16ピットの対応状況について



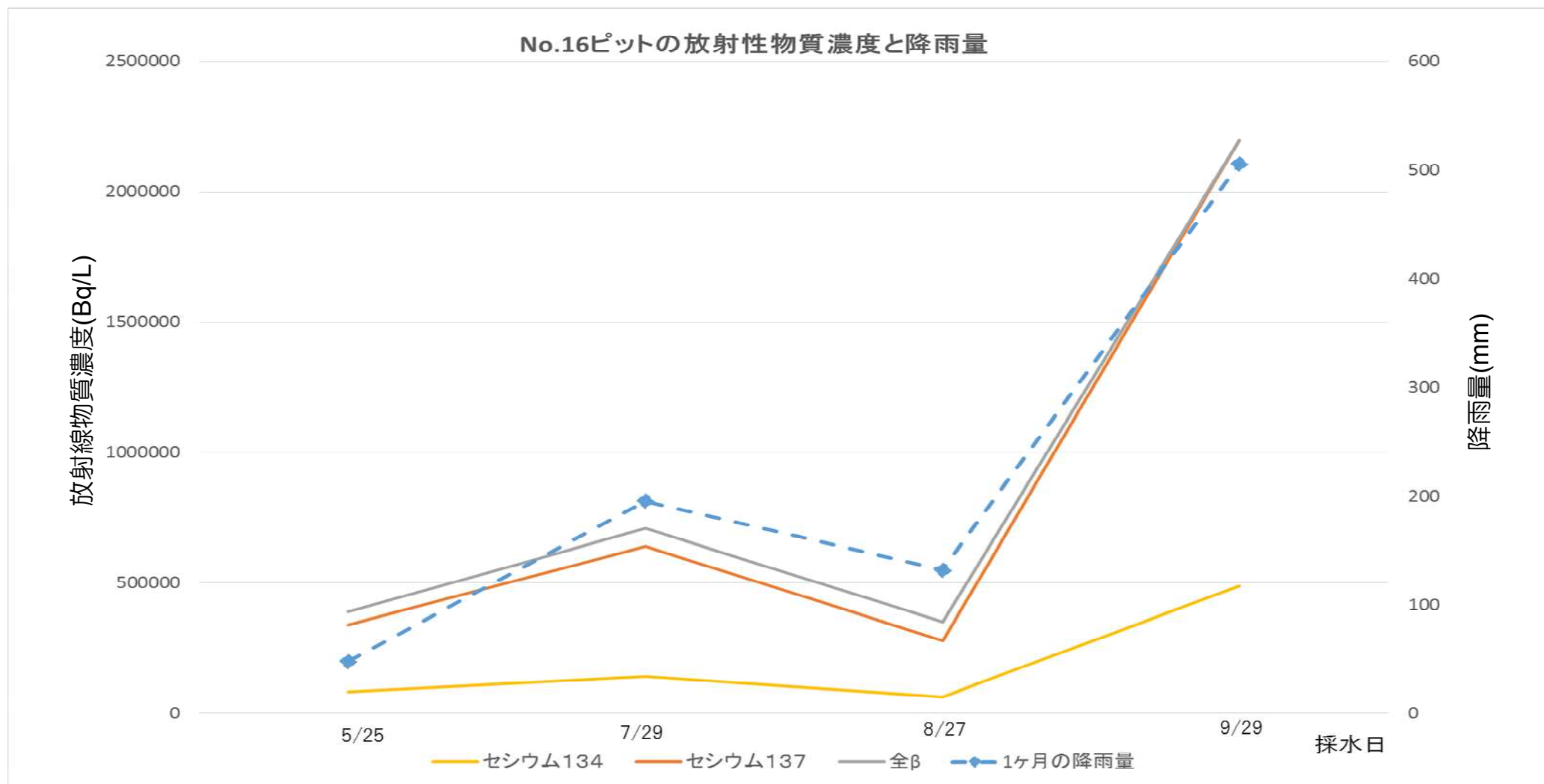
- 月1回程度溜まり水の汲み上げを行うこととし、第5回目として9/28~9/29に約28m³の汲み上げを実施。

		1回目 汲み上げ後 (2015.5.22~24)	2回目 汲み上げ後 (2015.7.14~21)	3回目 汲み上げ後 (2015.7.28~29)	4回目 汲み上げ後 (2015.8.27)	5回目 汲み上げ後 (2015.9.28~29)
採水日	2014.10.29	2015.5.25	2015.7.22	2015.7.29	2015.8.27	2015.9.29
Cs-134	850,000	83,000	150,000	140,000	63,000	490,000
Cs-137	2,900,000	340,000	630,000	640,000	280,000	2,200,000
全β	3,200,000	390,000	770,000	710,000	350,000	2,200,000
H-3	84,000	4,100	6,000	5,000	2,200	22,000

(Bq/L)

別紙2. 降雨量とNo.16ピットの放射性物質濃度の推移

- ✓ 放射性物質濃度は直近の降雨量※1に応じて変化している。

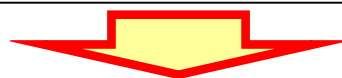


※1 降雨量は、採水実施日遡及1ヶ月の総量。

別紙3. 今後の対応

- No.16ピットの周辺には高線量の瓦礫等が存在しない。
- No.16ピットの周辺ピットにおいて、降雨の影響による濃度上昇が確認されていない。
- 放射性物質濃度に関して、No.16ピットではセシウム合計値と全βが同等であるものの建屋滞留水はセシウムの他にβ線放出核種の存在が確認されており、その組成が異なること、また、地下水位は建屋滞留水水位より高く管理されていることから、建屋滞留水の影響とは考えにくい。
- No.16ピットは高線量エリアに位置するNo.15ピットと横引き管で繋がっている。

上記から、記録的な降雨により高線量エリアに位置するNo.15ピットに汚染水を含んだ雨水が流入し、横引き管で連結しているNo.16ピットの放射性物質濃度が急上昇した可能性が考えられる。



➤ 今後の対応方針

- No.15ピットが位置する1/2号機周辺は高線量エリアであり人による調査が困難であるため、無人化技術を視野に入れながら調査・対策を検討する。
- No.15ピット周辺では1号機カバー工事、2号機燃料取り出し工事等が輻輳するため、調整しながら調査・対策を検討する。
- なお、月1回のNo.16ピットの汲み上げ浄化、サンプリングは継続して実施し、傾向監視を行うこととする。